

## 教育における実践力とは何か

中條 克俊

### はじめに―校内暴力の嵐から学んだこと

1981年4月、全国的に校内暴力の嵐<sup>(1)</sup>が吹き荒れる中、筆者の36年間の埼玉県公立中学校社会科教員の人生がスタートした。「果てしなき暴力教室」(1978年)とマスコミで報じられ、「日本一の荒れる学校」とまで言われた埼玉県南部の中学校が、筆者の教員人生の原点である。池袋駅から東武東上線で15分の地にある初任校での教職体験(在籍12年間)は筆者の教育における実践力を確実に高めてくれた。

以後、筆者は校内暴力の嵐から学んだ以下の5点(順不同)を教訓に現場第一主義(目の前の子どもたちと向き合う)の教員をめざすことになった。

#### 《校内暴力の嵐の教訓》

- ①教師の権威を笠に着た力まかせの指導をしない教育。
- ②目立たない子どもにこそ目を向け、一人ひとりの子どもたちと向き合う教育。
- ③子どもと共に学び、個を尊重する集団づくりをめざす教育。
- ④競争原理に走らず、点数学力以外の学力(思考力・判断力・表現力)を育てる教育。
- ⑤すべての学習は平和学習を追究する教育。

校内暴力の嵐を克服していく過程は、教員の実践力を高め、その力をバネとして新たな教育実践を生み出していく過程でもあった。その実践は家庭の教育力、地域の教育力と密接につながっており、筆者は教育における実践力とはあ

らゆる教育力の総体を意味していることを知らず知らずに体得していったのである。

### I 教育実践と教員の実践力

本稿では、学校教育における実践力つまり教員の実践力に絞って、具体的に論じていくことにする。それはさまざまな教育実践を生み出していく力量を意味する。そこでまず教育実践とは何かを見ていきたい。

#### 1. 教育実践とは何か

教育における実践力というときの実践とは、いうまでもなく教育実践のことである。用語としての教育実践の定義は何だろうか。いくつかの教育関連の文献(出版年代順)にあたってみた。

①「戦前というより、むしろ、戦後、それも1950年、朝鮮戦争後の教育の反動化に抗しつつ、本格的に展開されはじめた民間教育研究運動、日教組<sup>(2)</sup>教育運動のなかから、教師の民主主義教育をめざす、主体的でかつ意欲にみちた教育活動を表明する概念として登場してきた。(略)51年3月刊の『山びこ学校』を皮切りとする実践記録のめざましい刊行のなかで、いわば権力の教育支配への抵抗という意味のこもった概念として成熟していった」<sup>(3)</sup>

②「人間形成にかかわって目的意識的に働きか

ける直接的な活動過程を教育実践」<sup>(4)</sup>

- ③「教育理論に対応して、教育の実際の活動を意識的に把握しようとする言葉」<sup>(5)</sup>
- ④「日本語としての教育実践の成立と使用は必ずしも古いものではなく、昭和10年代前半のことである」<sup>(6)</sup>

教育実践という概念に関しては前述①「主体的でかつ意欲にみちた教育活動」、②「人間形成」にかかわる「直接的な活動」、③「教育理論に対応する」言葉とあり、大きな差異は見られないが、教育実践の登場、成立・使用時期は④「昭和10年代前半」、①「1950年、朝鮮戦争後」と違いが見られる。それでは、もう少し具体的事例に触れながら教育実践を考察してみたい。

## 2. 学制改革から現在にかけての教育実践

明治の学制改革以後、画一教育・詰め込み教育が行われていたが、日露戦争（1904～05年）後に、鈴木三重吉、竹久夢二、芥川龍之介などの芸術家と共に個性の教育をめざす自由で実験的な大正自由教育運動（又は大正新教育運動）が広まった。「綴方」（自由作文）を提唱した鈴木三重吉は童話雑誌『赤い鳥』（1918～36年）を発刊して、子どもの個性を重視する自由作文、自由画が授業に取り入れられるようになったのである。

大正デモクラシーといわれた時期から昭和初期にかけては、個性、芸術、科学を重視する子ども中心の私立小学校として成蹊小学校（1915年）、成城小学校（1917年）、自由学園（1921年女子部、27年初等部）、明星学園（1924年）、

玉川学園（1929年）、さらに中高一貫で日本初の男女共学校の文化学院（1921年）が創立されている（カッコ内は創立年）。明石女子師範学校（現神戸大学附属小学校）では、及川平治の「動的教育法」に見られるように現在のアクティブラーニングの先駆けともいえる授業がおこなわれた。全国の師範附属小学校でも実験的な取り組みはおこなわれ、これらの教育思潮は農村の公立小学校にも広がった。さらに前述『赤い鳥』の流れから、『綴方生活』（1929年）、『北方教育』（1930年）が創刊されて差別と貧困という現実を直視する生活綴方教育が実践された。これら教育実践の登場、成立時期は「大正から昭和初期」であるが、生活綴方運動が盛んになった前述④「昭和10年代前半」に「教育実践」という用語が定着したと考えられる。

大正デモクラシーの自由な風潮が学校教育現場に反映される一方で、1924年に川井訓導事件（長野県松本女子師範学校訓導の川井清一郎が修身の国定教科書を使用しなかったことを理由に退職に追い込まれた事件）、さらに1933年に日本教育史上最大規模の教員弾圧事件といわれる長野県「二・四事件」<sup>(7)</sup>がおきて、ファシズム教育、軍国主義教育、国家主義教育、皇民化教育の路線が急速化していった。新中間層（富裕層）が支持した私立小学校も国家主義教育の波に呑み込まれ、自由な風潮の教育実践は政治的に抹殺され、敗戦まで国策遂行の一助を教育が担うことになった。

敗戦の混乱の中、1947年3月に『学習指導要領・一般編（試案）』が発表された。その戦後教育改革期（1946～51年）に、教育の民主化の中から生まれた地域教育計画論は川口ブラ

ン（1946～49年、埼玉県川口市）、三保谷プラン（1947～49年、埼玉県三保谷村・現川島町）、本郷プラン（1949年、広島県本郷町・現三原市）の実践を生み出した。1950年には日本生活綴方の会が結成され、綴方教育の金字塔ともいえる教育実践記録『山びこ学校』（無着成恭編、1951年）が生まれた。

『学習指導要領・一般編（試案）』は、55年の『社会科編』改訂から「試案」の文字が消され、58年の小中学校の全面改訂時から、学習指導要領は「文部省告示」となった。「試案」から「告示」への転換によって、教員の教材選択の自由や教育方法が拘束されていくようになる。その流れに抗うようにして58年度以降、日教組や数学教育者協議会、歴史教育者協議会などの民間教育研究団体が教育課程の自主的民主的編成運動を展開し、さまざまな教育実践が生まれた。これらは教育実践の成立時期の前述①「1950年、朝鮮戦争後」にあてはまり、「権力の教育支配への抵抗」を意味するものであった。

以上の戦前・戦後を振り返ってみると、戦前には大正自由教育運動（自由な思潮）、戦後には教育民主化（学問の自由、教育の自由）が社会全体で保障されていたからこそ教員の実践力は生き、優れた教育実践が生まれたことがわかる。

大正自由教育運動から戦後教育改革期の地域教育計画論、戦後生活綴方運動、日教組・民間教育研究団体の教育実践は、知識注入主義に陥らずに子どもたちが本来持っている生きる力を引き出して育てる今の総合学習につながるものであった。しかし、今その流れは曲がり角にあることを自覚しなければならない。

### 3. 教員の実践力と教職課程

教員の実践力向上の芽生えは大学の教職課程になければならないであろう。筆者が大学の教職課程で学んだ知識・理論は校内暴力の嵐の前ではほとんど役に立たなかったことから、大学教職課程での筆者の役割は何かを示したい。それは、校内暴力の嵐の中での体を張っての教育実践とその時に手に入れた教訓（前述「はじめに」で提示）を具体的に伝えることではないか。助走期間ともいえる大学教職課程で現場感覚を身につけ、厳しい教育状況下でも理論と実践を融合でき、次世代を担える教員の育成に多少なりとも寄与できるように努力することが筆者に与えられた役割と考えている。

そこで、校内暴力の嵐の中およびそれを克服していく過程での教育実践を振り返っていきたい。筆者は中学校社会科教員であったことからどうしても社会的側面が強くなるが、できるだけ教育全般から教員の実践力について具体的に論じていきたい。

## II 自ら携わった教育実践と自己分析

### 1. 総合学習の教育実践

教科教育、道徳、特別活動（学級活動、生徒会活動、学校行事）、総合学習にわたる全教科・全領域にわたる筆者の教育実践史（中学校社会科教員36年）を作成してみた（資料表1）。本稿では筆者の専門とする社会科教育の実践に集約するのではなく、それと関連した総合学習の教育実践1～9を紹介したい。

文部科学省は2002年に「総合的な学習の時間」（高校では2022年より「総合的な探求の時間」に変更）新設している。それより以前

に1970年代半ば頃に教職員の団体である日教組をはじめ民間教育団体と共に積み上げてきた総合学習は、教科という枠を飛び越えた形でしかも子どもを中心に据えながらの学習形態である。そもそも授業時間として確保されていなかった総合学習は、あらゆる教科と連携する必要性もあった。小学校においては、長年積み重ねられた授業実践例が山のようにある。それらは、教育内容に迫ったものであったり、さまざまな工夫を取り入れた教育方法の開発であったりとバラエティに富んでいる。一方中学校さらには高等学校においては、教科担任制という制約もあって、総合学習を念頭に置いた実践例は乏しかった。筆者はこの総合学習に魅力を感じ、社会科教育を軸に実践を積み重ねることにした。

## 2. 総合学習の教育実践記録(1)～(9)と自己分析

### (1) 教育実践1

#### 「戦没者遺族へのアンケート調査」

- |   |
|---|
| 1) 実施年月<br>1990年7月～11月  |
| 2) 実施学校・学年<br>朝霞第2中学校3年3組   |
| 3) テーマ<br>文化祭クラステーマ「平和」   |
| 4) 教育実践の動機<br>勤務地朝霞市の「戦没者遺族会員名簿」を筆者が手に入れたことから始まり、その後、朝霞市遺族会長に直接会えたことが、子どもたちと一緒に「戦没者遺族会員へのアンケート」を実施することにつながった。 |

#### 《教育実践の流れ》

子どもたちは朝霞から戦場へと向かい非業の最期を遂げた戦没者の遺族の方々に①召集・死亡年月日②配属部隊③死亡地・死亡年齢に関するアンケート回答の依頼文を送った。子どもたち一人あたり1枚から2枚送った結果、戻って来たのは23枚。50枚近く送ったので、約5割の回収率であった。その結果を、遺族会兵士一覧表にまとめ上げた(資料表2)。

回収したアンケートをもとに、子どもたちは年表と地図を作製して地域の戦争と平和についてまとめ上げて文化祭で発表した。所属した部隊と作戦を調べたところくわしくはわからなかったが、激戦地となったフィリピンで亡くなった若者8人(番号7,9,10,13,15,17,19,21)が多く、召集されて6か月後に戦死された若者2人(番号4,21)、30代で召集された方々13人(番号2,3,8,9,11,13,14,15,17,18,20,22,23)、玉音放送(1945年8月15日)の1か月前に戦死された若者3人(番号9,10,17)に驚いた。死亡地シベリアの方1人(番号8)はシベリア抑留の三重苦(極寒、飢餓、重労働)の中で亡くなったと考えられた。そして生き残って帰国できた場合でも、病院1人(番号2)または自宅1人(番号11)で亡くなったケースが見られた。

調査の結果、多くの若者の尊い命を奪った戦争は、1945年で終わったのではなく今も悲しみが続いていることを子どもたちが知ることができたのは大きな成果であった。

#### 《教育における実践力に関する自己分析》

20坪という限られた空間(教室)と地域社会のつながりを求める興味・関心・好奇心は教

員の実践力の根っこにあるもので、この感性は大切にしたい。地域との接点をどう作るか、地域の方に協力をどう呼びかけるか、つまり地域に根ざした教育を作りあげる力量は教員の実践力であることを実感した。

## (2) 教育実践2

### 「古代米の栽培から餅つき大会」

- 1) 実施年月  
1992年4月～11月
- 2) 実施学校・学年  
朝霞第2中学校1年全体
- 3) テーマ  
古代米(赤米)の体験学習(田植えー収穫ー餅つき大会)
- 4) 教育実践の動機  
1991年春、筆者の個人的な興味関心から勤務校の敷地一角に8畳ほどのミニ田圃を校務員の方と一緒に造り、古代米の栽培にとりくんだ。これはいけるということ、翌年1学年全体の体験学習にしてはどうかと提案した。古代米栽培経験のある保護者と田圃提供者の協力も実践を後押しした。

### 《教育実践の流れ》

日本の稲は水田の3分の1以上がコシヒカリで白米だ。しかし、元々熱帯から亜熱帯のアジアの低湿地に生えていた野生の稲はほとんどが赤米といわれている。筆者はこの古代米を子どもたち有志と校務員の方と一緒に栽培したわけだが、予想外に多くの子どもたちが興味を示したので、翌年地域の農家のご厚意で田圃1反を借りて学年全体で古代米の体験学習に取り組むことになった。6月初旬に田植えをおこない、

10月に稲刈りをして収穫祭をかねて古代米の餅つき大会を実施した。地域から杵と臼を借りて来て、教員・子ども・保護者が一緒になっての餅つき大会は、きな粉餅、磯部餅が振舞われて楽しく終えることができた。ある子どもの声に耳を傾けてみよう。

「カエルがたくさんいてとてもかわいかったです。でもあとつぎのもんだいや、減反のもんだいなどがあってとても大変だとおもうけどたんぼがなくなってしまうのはいやです。たんぼがあると心がおちつくような気がするからです。」

お米の歴史に始まり、地域との交流で農家の後継ぎ問題、減反政策と米飯給食と多くを学び、その収穫も豊作であった。

### 《教育における実践力に関する自己分析》

地域に飛び出での体験学習は、地域の方々とのふれあいある生きた学習となることがわかった。学校、保護者、地域の三位一体の生きた学習をどう作り上げるかは、教員の保護者・地域への働きかけ＝実践力が重要であることがわかった。三者が知的好奇心を共有して協働したことは学校・家庭・地域の教育力の結晶物であった。

## (3) 教育実践3

「給食を残すことは地球温暖化につながるのだ！」

- 1) 実施年月  
1992年7月～11月
- 2) 実施学校・学年  
朝霞第2中学校1年3組



3) テーマ

文化祭クラステーマ「ピンチ！地球の温暖化」

4) 教育実践の動機

学校給食の残飯はどうしているのだろうかという子どもたちの疑問から、文化祭テーマを「環境問題」にしぼり、「地球温暖化」に焦点を当てて全員で取り組むことにした。残飯の行方は豚の餌と予想した子どもたちが動き出した。

《教育実践の流れ》

取り組みは5つのグループに別れて調査・研究・まとめという段取りを確認してスタートした。牛のゲップがメタンガスを放出することが温暖化につながることや、温暖化によってカエルが激減していることなどがわかってきた。子どもたちは、つづいて浜崎給食センターに聞き取りに行った。センターで働いている人から「みなさんの食べ残しはゴミとして出しているんだよ」と説明をうける。そこで子どもたちは各クラスの給食残菜食缶を保健室の体重計で計量することにした。9月14日が64キロ、9月16日が73キロ、9月17日が56キロで3日間だけの残菜総量が、なんと193キロにもなった。これはざっと254人分、5万6533円（給食費換算）が無駄となってしまったこともわかった。

最終的には、地域の朝霞市ゴミ焼却場から吐き出される煙を調査することにした。朝霞市ゴミ焼却場の聞き取りに行った子どもたちから、給食の残飯も燃やされていたという報告を受ける。学校→給食センター→朝霞市ゴミ焼却場→煙という具合で残飯はゴミとして

燃やされCO<sub>2</sub>を排出していた。文化祭当日は、清掃工場からもらった灰も展示して「給食を残すことは地球温暖化につながるのだ！」を見学者にアピールすることができた。

《教育における実践力に関する自己分析》

学校給食から地球環境問題を子どもたちと共に体験・学習していく過程での教員のアドバイスは子どもたちの探求心を引き出した。教員が子どもたちの疑問、発見を大切に、次につなげることに立ち会うことは教育実践上大切な場面である。子どもの発する疑問、発見をキャッチできるか否かは教員の実践力次第であることを実感した。

(4) 教育実践4

「ほうき草の栽培からほうきつくりー上福岡市歴史民俗資料館との連携」

1) 実施年月

1993年4月～10月

2) 実施学校・学年

朝霞第4中学校1年有志「ほうき草を育てる会」

3) テーマ

ほうき草の体験学習（種まき—栽培—収穫—ほうき作り）

4) 教育実践の動機

きっかけは「ほうきの種差し上げます」という埼玉新聞の記事。早速筆者はほうきを作ろうと子どもたちに呼びかけた。古代米同様に単なるモノ作りでは終わらせず、ほうき草栽培から荒神ほうき作成という体験学習に取り組むことになった。

### 《教育実践の流れ》

事前の調査で、上福岡市の地場産業であったほうきづくりは衰退の一途にあるわけだが、全盛の頃は朝霞の黒竹も利用してほうきづくりが行われていたことがわかった。さらに、新河岸川の舟運を利用して、出来上がったほうきは朝霞の河岸を通過点として江戸に運ばれており、上福岡と朝霞のつながりを知ることができた。

埼玉新聞の記事を読んだ筆者の呼びかけに、15人の生徒が手を挙げてくれた。そこで1学年「ほうき草を育てる会」を結成して、ほうき草の種を提供してくれる埼玉県上福岡市歴史民俗資料館を子どもたちと訪問することにした。ほうきの展示を見学して、ほうき草栽培方法を教えてもらった子どもたちが、4月末に学校敷地の裏庭に即席のほうき草畑をこしらえて種を蒔いたところ、ほうき草は冷夏の年とはいえ夏場になると身の丈まで生長した。9月末、実のついたほうき草を天日干してほうきの材料は出来上がった。

1993年10月、15人の子どもたちは再訪した資料館でほうきづくりにチャレンジした。ベテランほうき職人はわずか15分であっという間に荒神ほうきを作りあげてしまった。慣れない子どもたちは職人の手ほどきを受けて、あわせて11本の荒神ほうきをなんとか作りあげた。完成した荒神ほうきと体験記は、社会科の教材として大いに活用することができた。

### 《教育における実践力に関する自己分析》

教員が動く子どもが動く。逆に子どもが動くと教員が動く。どちらにしても、教員が第一

歩を踏み出せるかどうかはまさに教員の決断力と行動力=実践力次第である。教育における実践力とは、子ども任せではなくそして教員の押し付けでもない子どもと共に学ぶ場を作れるかどうかにあることがわかった。

### (5) 教育実践5

#### 「風船爆弾調査」

- 1) 実施年月  
1993年7月～11月
- 2) 実施学校・学年  
朝霞第4中学校1年1組
- 3) テーマ  
文化祭のクラステーマ「風船爆弾<sup>(8)</sup>」
- 4) 教育実践の動機  
地域に風船爆弾の気球部分の紙貼り作業の軍需工場があったということが、風船爆弾の調査・研究・発表へとつながった。風船爆弾に関しては未知の部分（『朝霞市史』に数行の記載があるだけ）が多々あったことが、私自身の調査意欲をさそい、そのことを子どもたちに投げかけた。

### 《教育実践の流れ》

「戦争中、朝霞では風船爆弾の風船部分の和紙を貼る作業がおこなわれていたが、はっきりとわかっていない。このことを調べたらどうだろう」

この筆者の話にすぐに飛びつくかと思いきや、子どもたちから「先生、それは暗いからやめようよ」と拒絶される。もう一度話し合うが子どもたちからこれといったものがなくて結論は「先生がどうしてもやりたいと言うから、1年1組の文化祭テーマは「風船爆弾」に決まり

ました！」となり、教師に恩着せがましく言いつつ、子どもたちは8つのグループに分かれて動き出した。

その結果、和紙産地の小川町まで行って気球紙を作成した生き証人の和紙職人から戦時中の話をうかがうことができた。気球部分の紙貼り作業の全工程は、「お国のため」にと働いた埼玉高等技芸女学校（現細田学園）の卒業生の証言からわかった。子どもたちとの調査活動の成果は、手作り冊子『中学生と風船爆弾』、『続中学生と風船爆弾』、『BALLOON BOMB』としてまとめることができた。

#### 《教育における実践力に関する自己分析》

地域は教材の宝庫である。それを拾うことができるか否かは教員の実践力にかかっている。教員それぞれの専門性によって視点は異なるが、地域学習は地域を見つめさせるきっかけとなり、ある時は地域の魅力発見につながる。地域に埋もれてしまった歴史と文化を掘り起こす力=実践力は社会科教員だけではなくすべての教員に求められている。

### (6) 教育実践6

#### 「民族差別—朝鮮学校訪問から交流へ」

- 1) 実施年月  
1994年7月～11月
- 2) 実施学校・学年  
朝霞第4中学校2年3組
- 3) テーマ  
文化祭のクラステーマ「民族差別」
- 4) 教育実践の動機  
1994年の4月から6月にかけて日本

の各地で「チマ・チョゴリ切り裂き事件」が連続して起きた。子どもたちは純粋な正義心から当然憤慨しているだろうと思いきや、実際はあきれるばかりに無関心であった。そこで子どもたちと共に埼玉朝鮮初中級学校を訪問することになった。

#### 《教育実践の流れ》

朝鮮半島が日本の植民地であったことを社会科歴史の学習で理解していても、それが過去の問題で終わっておらず、在日コリアンに対する民族差別という現実問題につながっているということがわからない。ここに中学生の韓国・朝鮮認識の希薄さがあった。早速子どもたちに事件の背景と概要を教え、同年齢の在日コリアンを励まそうということで「激励旗」と「激励文」を作成して埼玉県内唯一の埼玉朝鮮初中級学校（さいたま市）と交流をはじめようということになった。

以後、「知ることが交流の第一歩」を合言葉に、キムチ講習会（1994年）、生徒会創作劇「21世紀への伝言」（1998年）、朝鮮学校運動会参加（1999年）、合唱コンクールへの招待（2000年）などを通してお互いの友情を深めて、結果的に交流会は2016年まで続いた。培われた連帯感が友好的な韓国・朝鮮観を形づくることは体験した卒業生の話からもわかった。韓国併合、関東大震災直後の朝鮮人虐殺事件、日本軍「慰安婦」（従軍慰安婦）、朝鮮人強制連行そして戦後補償が決して過去の問題ではなく現在の問題でもあることを社会科の学習で深めることができたのは交流会のおかげであった。



### 《教育における実践力に関する自己分析》

「チマ・チョゴリ切り裂き事件」は、中学生が絶対に見落としてはいけない現実的テーマのひとつであった。交流会は、差別は見ようとしなければ見えないことを子どもたちと再認識する場でもあった。日韓、日朝関係が厳しい現在、在日コリアンへの理解ある眼差し、そして民族差別をはじめあらゆる差別に対する鋭い感受性が現場の教員に求められている。教員の差別を見抜く力＝実践力は、差別という暴力を許さない子どもを育てる。

### (7) 教育実践7

#### 「アフリカ学習からエチオピアとの国際交流」

- 1) 実施年月  
1996年9月～11月
- 2) 実施学校・学年  
朝霞第4中学校1年
- 3) テーマ  
社会科「アフリカ学習」からエチオピアとの国際交流
- 4) 教育実践の動機  
1996年の中学校1年社会科地理のアフリカ学習から、勤務校とエチオピアとの交流は始まった。アトランタオリンピック(1996年)女子マラソンで優勝したファトマ・ロバのふるさとエチオピアのことについてもっと知ろうとエチオピア大使館に生徒会本部役員が1本の電話を入れたのである。

### 《教育実践の流れ》

エチオピアには、77のエスニックグループがあり、方言をいれると約100の言語がある。多様性を認めながらの国づくりをするに

あたって、エチオピアはマラソンを国技にして一体感を高めてきた。筆者は「国のために走った」と語るファトマ・ロバの優勝を社会科アフリカ学習の教材にして授業をおこなった。彼女が中学生のころにエチオピアは大干ばつの食糧危機に陥り、世界最貧国のひとつとなったことも説明した。この授業を受けた生徒会本部役員がエチオピアへのささやかな援助が中学生にもできないかと動きだしたのである。

エチオピア大使館に連絡を取ると、参事官が直々に勤務校を訪問したいという返事であった。参事官来校(1997年)後、エチオピアウオンカ小中学校交流(1997、98年)、生徒会募金活動「ジュース1本がまんして、SAVE ETHIOPIA」(1997、98年)、エチオピア大使館訪問(2000年)、文化祭生徒会創作劇(2000年)など自治的活動が学校全体の活動へと広がりを見せた。生徒会が募金活動した金額はささやかではあったが、遠く離れたエチオピアへの思いは子どもたちの心に刻まれたであろう。

### 《教育における実践力に関する自己分析》

国際交流は、日本国内の身近なところでも十分可能な教育活動であることを実感した(内なる国際化)。社会科教育が自治的諸活動へつながり、さらには学年・学校全体の国際理解教育へと広がりを見せた教育実践は、学年づくり、学校づくりの過程であり、子どもが主体的に動き始めるプランでもあった。教科教育—自治的諸活動—学校づくりという流れを視野に入れてのプラン作成力は教員に求められる実践力である。

## (8) 教育実践8

### 「基地の街朝霞に学ぶ」

- 1) 実施年月  
1993年4月～2017年3月
- 2) 実施学校・学年  
朝霞第4・第1・第3中学校1年～3年
- 3) テーマ  
基地の街朝霞フィールドワーク
- 4) 教育実践の動機  
1993年から地域の戦争体験者の聞き取りを子どもたちと一緒に始め、それは同時に敗戦直後の混乱から復興に向けての戦後体験の聞き取りにもなった。1945年9月、朝霞にあった陸軍予科士官学校跡地(現陸上自衛隊朝霞駐屯地)に、占領軍基地(主体は米軍)キャンプ・ドレイクが設置されて朝霞は基地の街となった。筆者はその歴史を教材化しようと考えた。

### 《教育実践の流れ》

非行克服のための平和学習は、朝霞の戦争の歴史に目を向けていくことになった。アジア太平洋戦争末期、帝都に近い朝霞はミニ軍都となった。1941年には、市ヶ谷の陸軍予科士官学校と赤羽の東京陸軍被服支廠(後に陸軍被服本廠朝霞出張所)が朝霞に移設され、陸軍白子病院(別称振武台病院、現在の独立行政法人国立埼玉病院)も新設されたのである。

1945年9月、占領軍が朝霞に進駐するや、朝鮮戦争時には約1万5000人の米兵が朝霞に集結して、殺人、ケンカ、麻薬密売が日常茶飯事となり、風紀は乱れた。「パンパン」と呼ばれた米兵相手の売春女性が全国から集まり、一大歓楽街となった朝霞を「埼玉の上海」とマス

コミは報じた。筆者は現実の朝鮮戦争、ベトナム戦争を目の当たりにした地域住民の聞き取りをまとめ、社会科教材にした。

基地の街朝霞フィールドワークで始まる3年間を見通した平和学習<sup>(9)</sup>は、地域の問題は日本そして世界の問題につながり、世界の問題が解決されてこそ日本そして地域の問題が解決されることが見えてきた教育実践であった。

### 《教育における実践力に関する自己分析》

米軍基地跡地に残された施設等の置土産は日米地位協定第4条1<sup>(10)</sup>によるもので、米軍には原状復帰そして環境汚染に対する補償の義務はない。朝霞フィールドワークは「基地は返還されたが、基地問題はまだ終わっていない」ことを子どもたちと確認する場でもあった。現在、朝霞市は地域住民と共に基地跡地の平和活用をすすめている。基地の街朝霞の歴史を、地域住民そして子どもと共に考える教育実践は生きた平和学習である。教員の実践力は地域の活動と共に鍛えられ、その過程で教員の地域理解、社会認識も高まることがわかった。

## (9) 教育実践9

### 「ヒロシマ修学旅行」

- 1) 実施年月  
1984年6月、1987年6月、1990年6月、1991年6月(以上朝霞第2中学校)、2015年9月(朝霞第3中学校)
- 2) 実施学校・学年  
朝霞第2・第3中学校3年
- 3) テーマ  
ヒロシマ修学旅行(すべての学習は平

和学習)

#### 4) 教育実践の動機

1970年代末から日本全国に吹き荒れた校内暴力の嵐の中で、勤務校の朝霞第2中学校は、最悪の非行である戦争を学ぶことによって非行克服をめざすことにした。1981年、何回かの熱い職員会議を経て、翌年からヒロシマ修学旅行が始まった。

#### 《教育実践の流れ》

校内暴力の嵐の中から生まれた平和学習を学校全体でとりくむことになった。以後、「すべての学習は平和学習」が筆者自身の教育的信念となった。朝霞第2中学校で4回、朝霞第3中学校では1回、合計5回のヒロシマ修学旅行を実施した。当初は広島市内だけであったが、1990年、1991年には被害だけではなく加害の事実を学ばなければならないと戦時中に毒ガスを製造していた大久野島（広島県竹原市）のフィールドワーク（大久野毒ガス資料館、島内に残された戦争遺跡の砲台跡、発電場、毒ガス貯蔵庫等）を初日に加え、翌日にヒロシマフィールドワーク（慰霊碑前の平和集会、広島平和記念資料館見学、爆心地、原爆ドーム、原爆養護ホーム、本川小学校、袋町小学校、放射線影響研究所等）を実施した。91年には保護者有志が参加して、協同で平和学習を行った。

筆者にとって最後のヒロシマ修学旅行は「修学旅行先をヒロシマで提案しましょう」という意見が若い教員からの提案から始まった。筆者が平和学習を進めていることを知った教員が積極的に動き出したのである。2015年9月8日午後12時半、青く透き通っていたヒロシマの

空の下、慰霊碑前で朝霞第3中学校平和集会がおこなわれ、合唱「大地讃頌」が平和公園に響いた。ヒロシマ修学旅行は、実践力とは教職員組織全体のものがあることを教えてくれ、子ども・保護者と共に学ぶアクティブラーニングであった。

#### 《教育における実践力に関する自己分析》

核廃絶・非戦は切実な世界の問題である。その問題解決に向けて教育の力＝平和学習は大きな役割を果たすであろう。戦争をなくすにはどうしたらよいか、どのように戦争を克服していくかをみんなで話し合うことは、平和の力となる。平和の発信源は学校教育現場にあり、そこで教員の実践力と教育の力が発揮される。教育の力とは子どもと共に理想の社会を追い求める力でなかろうか。

### Ⅲ 見える実践力と見えない実践力

#### 1. 実践力の自己分析のキーポイント

36年間にわたる筆者の教育実践の中から教育実践(1)～(9)を振り返り、教員の実践力の自己分析のキーポイントを以下のようにまとめてみた。

#### 《教育における実践力に関する自己分析》

##### 実践1

地域社会とのつながりを求める興味、関心、意欲は教員の実践力の根っこにある。

##### 実践2

保護者・地域へ働きかけができる実践力。

##### 実践3

子どもの発する疑問・発見をキャッチできる実践力。

**実践4**

一歩踏み出す時の決断力と行動力は実践力。

**実践5**

地域に埋もれた歴史と文化を掘り起こす実践力。

**実践6**

差別に対する感受性と差別を見抜く力は実践力。

**実践7**

教科指導—自治的諸活動—学校づくりを視野に入れてのプラン作成力は実践力。

**実践8**

教員の実践力は地域の活動と共に高められる。

**実践9**

実践力のある教員が教育の力を発揮する。

現在進行中の教育改革並びに改訂学習指導要領の全面实施（小学校2020年、中学校21年、高校22年から年次進行）を前に、教員の実践力が問われている。そこには教員の決断力、行動力、判断力、表現力、対話力、リーダーシップなど見える実践力以外に見えない実践力もある。そこで、見えない実践力＝教育における実践力に内在する力を4点あげてみたい。

## 2. 見えない実践力＝教育における実践力に内在する力

### (1) 独創性のある発想力

教科書一辺倒で授業指南書通りの教育実践には独創性は感じられない。楽しくわかるまたはわかって楽しい教育実践には必ず独創性がある。それは教材であるかもしれないし、教育内容、教育方法であるかもしれない。独創性のある発想力は自分にしかできない教育実践を生み

出していく。そこには先行実践から得たヒントもあるであろう。この独創性のある発想力を磨くためには、教員は学校に閉じこもっていないで、自らの研究テーマに沿って調査、体験を積み重ね視野を広げなければならない。教員は教育実践者であると同時に研究者でもありたい。「教えることは学ぶこと」が、教員の独創性ある発想力を育てる。

### (2) 最新の研究成果を生かせる応用力

最新の研究成果を生かして教育内容を練り上げ、意外性のある教材を作り、新しいインタラクティブ（双方向）な教育方法を取り入れている教員の実践力は高い。理想の授業を求め、授業の達人でありたいと願う教員は、最新の研究成果に学びそれらを授業に生かせる応用力を持っている。彼ら教員一人ひとりのクリエイティブな教育実践の積み重ねは、教職員集団全体の力量をも高めていき、結果として子ども集団の学力＝生きる力を高めていくであろう。理論に裏付けられた現場第一主義の教員でありたい。

### (3) 地域に根ざした構想力

地域に根ざした教育実践は、地域から日本、世界へと子どもたちの視野を広げることができる。地域に学び、地域を語れる教員の実践力は高い。20坪という限られた空間（教室）から、子どもたちと一緒に地域に飛び出すと発見と驚きが待っている。教材の宝庫である地域を活用できる構想力は地域おこし＝地元の魅力発信にもつながる。地域住民と交流しながら、地域の課題を自分たちで見つけ解決していこうとする

過程はまさにアクティブラーニングであり、地域づくりである。学校、家庭そして地域が協働できる理想の教育とは何かを追い求める構想力が今教員に求められている。

#### (4) 子どもと共に学ぶ向上力

個人・個性が生きる学級・学年・学校集団づくり、子どもと共に学ぶ向上力を大切にする教員の実践力は高い。集団の為に個人が犠牲になるという二宮尊徳的発想の集団ではない、生徒一人ひとりが主権者意識を持つ集団の形成を求めるのである。外国籍児、国際結婚で生まれた国際児（ダブル）そして性的マイノリティ（LGBTなど）に悩む子どもたちが今後も増えていくことから、個性を尊重して社会の多様性（ダイバーシティ）を認める社会形成者を育てることは喫緊の教育課題である。子どもと共に学ぶ向上力は、個を重視する教員の対話力にかかっていることも忘れてはならない。

以上の4点であるが、教職をめざす学生、現場の先生方には、大正自由教育運動から戦後教育改革期の地域教育計画論、戦後生活綴方運動、民間教育研究団体の教育実践を継承・発展させた見えない実践力も培って欲しい。そのことは「主体的・対話的で深い学び」に対する創造的問題提起につながるであろう。

#### おわりに—教育の力を信じる

教員の実践力は与えられるものではなく、教員自らが主体的に獲得していくものであることがわかった。そして、子どもと共に学びながらの教育実践にこそ教員の力量の向上が見られることもわかった。しかし、振り返ってみると反

省点もある。筆者と一部子どもだけの自己満足で終わってしまった実践もあったのではないかな。あのとときの一方的な一言が子どもを悲しませ、やる気をそいだのではないかな。今でも、その場に戻って子どもと向き合いながら、元気出してがんばろうと声をかけたいくらいだ。子ども一人ひとりと向き合い、困っている、悩んでいる、つらい立場の子どもへのやさしいまなざしは教員の隠れた実践力であるのかもしれない。

子どもたちには「いつまでも夢と希望とロマンを忘れずに」と励ましてきたが、実はこれは筆者自身に向けての言葉でもあった。最後の「ロマン」は「広辞苑」には「③夢や冒険への憧れを満たす事柄」とあるが、筆者は「今のところ実現は難しいかもしれないが、その可能性をいつまでも追い求めることがロマンだよ」と自分自身に言い聞かせて、子どもたちにも投げかけてきた。そのことはSDGs（持続可能な開発目標）の達成を追い求めていく現在にもつながっている。

「民主的で文化的な国家を建設して、世界の平和と人類の福祉に貢献しようとする」「理想の実現は、根本において教育の力にまつ」（旧教育基本法「前文」）は、今でも現場教職員へのエールである。教育の力を信じ、理想の教育を追い求めることは教員の実践力を高めてくれるにちがいない。多忙極まり余裕のない現在の学校現場において、チームワークつまり教職員集団の実践力が問われている。さまざまな教科教員が各自の持ち味を生かせる職場は豊かであり、その職場状況は見事に教育現場に還流していくことになるからだ。



学校現場の現状はきびしく、「教職はブラック」が定着しつつある。ブラック解消には、教職員の増員による少人数学級の実現が一番に望まれるが、早期実現は難しい。教員の魅力を取り戻すには自分自身の健康を第一に「夢と希望とロマン」にあふれた教育実践を発信することだ。筆者も「教育における実践力とは何か」を立教大学の学生・教員、教育関係者、保護者、市民のみなさんと共に考えていきたい。

《注》

(1) 校内暴力の定義を文部省（当時）は「校内暴力とは、一般に、学校生活に起因する児童生徒の暴力行為を指し、対教師暴力、生徒間暴力及び学校の施設・設備等の器物損壊の3形態をいう。」（『校内暴力等に関する調査について』1984年）としている。当時の教育事情によると思われるが、校内暴力の要因を「教師」「家庭」「生徒」のいずれかで分析する手法が多くみられたが、この3つからどれが最大の要因かを探ることはケースバイケースでありあまり意味はないと考えられる。

筆者は①明治期以来の軍国主義教育の力まかせの教育は通用しなくなったこと。②天皇を頂点とする家父長制の秩序関係の崩壊。学校現場における教師の絶対性の消滅。③新自由主義（市場原理優先、規制緩和、自己責任）による経済効率第一主義社会の到来。④暴力団一暴走族一ツツパリという縦組織の存在、という4点を校内暴力の嵐の要因と考えている。詳しくは拙著『君たちに伝えたい③朝霞、校内暴力

の嵐から生まれたボクらの平和学習。』（梨の木舎、2017年）を参照されたい。

(2) 1947年に結成された日本教職員組合（日教組）は、教育研究活動の重要性を大会で確認して、1951年11月に第1回全国教育研究大会（1955年から名称を教育研究全国集会に改める）を栃木県日光市で開いた。1952年を除き、毎年全国各地で日々の学校における教育実践の報告と交流がおこなわれ、学び合ったことがらは地元の現場に還流された。報告者にとっては自らの教育実践を検証する場でもあり、自らの研究活動、教育活動を前進させるものでもあった。2019年には第68次全国教研が福岡県北九州市で開催され、約800本のレポートが報告された。

(3) 『現代日本教育実践史』（海老原治善、明治図書、1975年）

(4) 『現代教育学事典』（労働旬報社、1988年）

(5) 『新教育学大事典第二巻』（第一法規、1990年）

(6) 『新版 現代学校教育大事典』（ぎょうせい、2002年）

(7) 長野県諏訪地方を中心に起きた教員赤化事件、通称「二・四事件」。1933年2月4日から4月末までに138人の教員が検挙、そのうち行政処分115人、28人が起訴され13人が有罪、33人が懲戒免職や諭旨退職によって教壇から追われた。検挙教員を出した学校長への処分は厳しく、5人が諭旨退職となった。校長の合同修身や神社参拝励行など各学校では徹底した皇民科教育がおこなわれた。33年4月に設置された

- 思想対策協議会は、思想・文化・教育の国家的指導原理とした「日本精神」=国体(天皇制イデオロギー)を確立した。赤化思想防止、思想対策に「日本新聞」(1925年～1935年発行)の果たした役割も大きかった。
- (8) 風船爆弾の呼称は戦後のもので、戦時中は「ふ号」と呼ばれた秘密兵器であった。「ふ号」作戦は決して無謀な作戦ではなく、当時の金額で2億5000万円(現在の約8000億円位)という戦費が投じられ、登戸研究所(正式名称:第9陸軍技術研究所)を中心にアメリカ本土攻撃可能な最終決戦兵器として開発された。ねらいは「国民の士気昂揚」と「火災の恐怖・生物(細菌)兵器が積まれるのではないかという心理作戦」にあった。直径10メートルの気球紙の原材料は、1発あたり和紙2400枚とこんにゃくのり90キログラムである。和紙は埼玉県小川町の細川紙が当初使われ、後に全国の和紙産地が気球紙の大量生産をはじめた。ボンベ50本分の水素ガスが充填された風船爆弾の動力源は上空約1万メートルのアメリカに向けての偏西風である。11月から3月にかけての偏西風の平均時速は221.4キロで、約50時間でアメリカ本土に到着すると予想した。太平洋側の千葉県一宮、茨城県大津、福島県勿来の3カ所から約9300個の風船爆弾が発射され、アメリカ大陸本土で285発が発見されたが、未確認を含めると約1000発は海を渡ったといわれている。詳しくは拙著『中学生たちの風船爆弾』(さきたま出版会、1995年)を参照されたい。
- (9) 詳しくは拙著『君たちに伝えたい朝霞、そこは基地の街だった。』(梨の木舎、2006年)、『君たちに伝えたい②朝霞、キャンプ・ドレイク物語。』(同前、2013年)を参照されたい。
- (10) キャンプ・ドレイクの置土産には①リトル・ペンタゴン(司令部)などの施設・建物、②土中に埋められた機関銃、タンクなどの米軍関連物資、③環境基準値より30倍以上の鉛と同じく4.4倍のダイオキシンの検出された汚染土壌とアスベストがある。どうしてこんな負の置土産が許されるかの答えは日米地位協定(1960年/全28条)の「合衆国は、この協定の終了の際又はその前に日本国に施設及び区域を返還するに当たって当該施設及び区域をそれらが合衆国軍隊に提供された時の状態に回復し、又はその回復の代りに日本国に補償する義務を負わない」(日米地位協定第4条1)にある。ジョン・ミッチェル『追跡日米地位協定と基地公害「太平洋のゴミ捨て場」と呼ばれて』(岩波書店、2018年)は「埼玉県のキャンプ朝霞跡地からは、2007年に安全基準の30倍という鉛汚染が見つかった」(88ページ)と指摘して、「米軍公害は日本の過去を汚染した。今日も汚染は続いている」(189ページ)と警告している。基地の街朝霞の基地公害は決して過去の問題ではないことを教えてくれる。

《参考文献》

- ・『戦後日本における地域教育計画論の研究—矢口新の構想と実践』(越川求、すずさわ書店、2014年)
- ・前田一男「長野県教員赤化事件(『二・四事件』)に関する研究(1)—1930年代教育史象の再構築のための研究視覚—」(『立教大学教育学科研究年報第60号』所収、2017年2月28日発行)
- ・『やまびこ学校』(無着成恭編、岩波文庫、1995年)
- ・『赤米・黒米の絵本』(猪谷富雄編・スギワカユウコ絵 2010年、農山漁村文化協会)
- ・NHKスペシャル『かくて自由は死せり—ある新聞と戦争への道』(2019年8月12日放映)
- ・NHKBSプレミアム『英雄たちの選択/100年前の教育改革—大正新教育の挑戦と挫折』(2019年8月21日放映)

《資料》

表1 筆者の教育実践

中学校社会科教員 36年 (1981年4月～2017年3月)

| 年度           | 担当学年                  | 実践  |
|--------------|-----------------------|---|
| 1981 (昭和 56) | 朝霞 2 中、中 2 副担任 (25 歳) | 全国的な「校内暴力の嵐」の中、教員人生はじまる。天井修理が最初の仕事。連日連夜の生徒指導と緊急職員会議が続く。水泳部顧問として一緒に泳ぐ(プールが「オアシス」)。                 |
| 1982 (昭和 57) | 中 1 担任                | 授業不成立の中、がむしゃらに授業する。「学級通信」連日発行。  |
| 1983 (昭和 58) | 中 2                   | 「朝霞の寺」(文化祭クラステーマ)   |
| 1984 (昭和 59) | 中 3                   | <b>実践 9</b> ヒロシマ修学旅行①(ヒロシマ通信「閃光」発行) ツッパリの「3分間生徒授業」実施後、授業成立。<br>「自衛隊あなたはどうか考える—平和を訴える—」(文化祭クラステーマ) |
| 1985 (昭和 60) | 中 1                   | 「30 <sup>キ</sup> 強歩会」初実施(学校行事、霞ヶ関駅～荒川河川敷～朝霞 2 中)  |
| 1986 (昭和 61) | 中 2 (30 歳)            | 地域に根ざした授業づくりをめざす(地域教材の開発・開発・活用)。  |
| 1987 (昭和 62) | 中 3                   | <b>実践 9</b> ヒロシマ修学旅行②(現地翠町中学校との交流会、学年・学校行事)   |
| 1988 (昭和 63) | 中 1                   | 地域の読書会に参加する(『人間の壁』『夜明け前』)。  |
| 1989 (平成 1)  | 中 2                   | 初めて民間研究団体で授業実践「人権教育を重視した社会科」を報告する。<br>初めての中学地理授業実践記録「バナナ 1 本いまいくら?」                               |
| 1990 (平成 2)  | 中 3                   | <b>実践 9</b> ヒロシマ修学旅行③(「毒ガス島」大久野島訪問、学  |

|              |               |   |
|--------------|---------------|---|
|              |               | 年・学校行事)   |
| 1991 (平成 3)  | 中 3 (35 歳)    | <b>実践 1</b> 「戦没者遺族へのアンケート調査」(文化祭クラス<br>テーマ)<br><b>実践 9</b> ヒロシマ修学旅行④(「毒ガス島」大久野島再訪、<br>保護者も参加、学年・学校行事)   |
| 1992 (平成 4)  | 中 1           | 「朝霞フィールドワーク」(学校行事)<br>「琵琶湖の水のお味は？」(地理「近畿地方」)  |
| 1993 (平成 5)  | 朝霞 4 中<br>中 1 | <b>実践 2</b> 「古代米の栽培から餅つき大会」(学年行事)<br><b>実践 3</b> 「給食を残すことは地球温暖化につながるのだ」(文<br>化祭クラステーマ)<br>「りんご泣いてーりんご王国青森と台風 19 号」(地理「東北<br>地方」)                  |
| 1994 (平成 6)  | 中 2           | <b>実践 4</b> 「ほうき草の栽培からほうきつくりー上福岡歴史民<br>俗資料館」(学年行事)<br><b>実践 5</b> 「風船爆弾調査」①(文化祭クラステーマ)<br>冊子「中学生と風船爆弾」(1993、10、1)発行<br>冊子「続中学生と風船爆弾」(1994、3、26)発行 |
| 1995 (平成 7)  | 中 3           | <b>実践 5</b> 「風船爆弾調査」②(個人調査、学年行事)<br><b>実践 6</b> 「埼玉朝鮮初中級学校訪問学習」①(文化祭クラス<br>テーマ)<br><b>実践 5</b> 「風船爆弾調査」③(学年行事)<br>冊子「バルーン・ボム」(1995、6・30)発行        |
| 1996 (平成 8)  | 中 1 (40 歳)    | <b>実践 7</b> 「エチオピア学習」①(地理「アフリカ」)<br>「学級劇・今どきの中学生-茶髪論争」文化祭クラステーマ<br><b>実践 7</b> 「エチオピア・アディス参事官来校・講演」②(学<br>校行事)                                    |
| 1997 (平成 9)  | 中 2           | 「歴史入門-近くて遠い国」(歴史オリエンテーション)<br>「『従軍慰安婦』と援助交際」①(歴史「近現代」)  |
| 1998 (平成 10) | 中 3           | <b>実践 6</b> 「21 世紀への伝言-国境・民族を越えて-」②(生徒会)<br>「朝霞の国政選挙投票率はなぜ低いのか」(選択社会科)  |
| 1999 (平成 11) | 中 1           | 「アメリカンスクールとの交流」(地理「沖縄」)   |
| 2000 (平成 12) | 中 2           | 博学連携学習「板碑の授業」(歴史「中世」)<br>「創作民話を聞くー子どもの本を読む会」(歴史「近世」)  |
| 2001 (平成 13) | 中 3 (45 歳)    | <b>実践 8</b> 「広沢池-ゲストティーチャーと青空教室」①(選択<br>社会科)<br><b>実践 8</b> 「喫茶『海』で楽しむジャズ」②(選択社会科)  |

|              |                          |  |
|--------------|--------------------------|--|
| 2002 (平成 14) | 朝霞 1 中<br>中 1            | <p>「消えた『従軍慰安婦』② (歴史「近現代」)</p> <p>「中学生と平和主義—9・11 同時多発テロ」(公民「日本国憲法」)</p> <p><b>実践 5</b> 「ゲストティーチャーの風船爆弾紙芝居」④ (公民「日本国憲法」)</p> <p>博学連携学習「中学生にもわかる古文書学習」(選択社会科)</p> <p>博学連携学習「火おこし体験」(選択社会科)</p> <p>改訂学習指導要領実施・「総合的な学習の時間」新設</p> <p>地域学習「君は尾崎豊を知っているか」(3年選択社会科)</p> <p>「わしの祖先はアカベコ」(地理「岩手県」)</p> <p><b>実践 6</b> 「知ることが交流の第一歩」③ (埼玉朝鮮初中級学校で合同授業)</p> <p><b>実践 8</b> 「朝霞 1 中とキャンプ・ドレイク」③ (総合)</p> <p><b>実践 8</b> 博学連携学習「航空写真から見る朝霞」④ (歴史「地域調査」)</p> |
| 2003 (平成 15) | 中 2<br>学年主任<br>担任        | <p>「中学生が考えるイラク戦争」(歴史「近現代」)</p> <p>「ヨーロッパ人は日本人をどう見たか」(歴史「近現代」)</p> <p>「中学生と朝鮮・韓国」(歴史「近現代」)</p>  |
| 2004 (平成 16) | 中 3<br>学年主任<br>担任        | <p>「消えた『従軍慰安婦』③ (公民「国際人権」)</p> <p>「中学生と『憲法改正』」(公民「日本国憲法」)</p> <p>博学連携学習「柵塚遺跡ミニフィールドワーク」(選択社会)</p>  |
| 2005 (平成 17) | 中 1<br>学年主任<br>担任        | <p>地理学習授業開き「皿回しから世界地理学習」(地理オリエンテーション)</p> <p>「中国学習—反日ブーイングと反日デモをどう思う?」(地理「中国」)</p>   |
| 2006 (平成 18) | 中 2 (50 歳)<br>学年主任<br>担任 | <p>歴史学習授業開き「歴史から見る MONEY の話」(歴史オリエンテーション)</p> <p><b>実践 8</b> 地域学習「わが街朝霞」⑤ (総合)</p> <p><b>実践 8</b> 「講演・基地の街朝霞と朝霞第 1 中学校」⑥ (総合)</p> <p><b>実践 8</b> 博学連携学習「朝霞ミニフィールドワーク」⑦ (総合)</p>  |
| 2007 (平成 19) | 中 3<br>学年主任<br>副担任       | <p>「関東大震災—山川菊栄と金子文子」(歴史「近現代」)</p> <p>公民学習授業開き「私のおとうさん、おかあさんの中学時代」</p> <p>「こういふときだからこそ主権者教育を」(公民「日本国憲法」)</p> <p>「消えた『従軍慰安婦』④ (公民「国際人権」)</p> <p>「DO YOU KNOW MINAMATA DISEASE ?」(公民「4 大公害裁判」)</p> <p>「平和アピールを国連広報センターに送ろう」(総合)</p>   |



|              |                                 |  |
|--------------|---------------------------------|--|
| 2008 (平成 20) | 学年主任<br>担任                      | <p><b>実践 8</b> 「お別れ会ージャズ平和コンサート」⑧ (総合)</p> <p>地理学習授業開き「再び、皿回しから世界地理学習」<br/>         テーマ「平和・人権・民主主義」(総合 1 年目)<br/>         平和学習通信「閃光」発行(総合 1 年目)<br/> <b>NHK</b> アーカイブス「赤い背中」上映(総合 1 年目)<br/> <b>NHK</b> アーカイブス「サダコ」上映(総合 1 年目)<br/>         アニメ映画『はだしのゲン』上映(総合 1 年目) 講演「被爆医師肥田舜太郎さんの証言に学ぶ集い」(総合 1 年目)<br/>         埼玉フィールドワーク(埼玉県平和資料館・丸木美術館)(総合 1 年目)<br/>         ピース・レポート 08 作成(3 学期)(総合 1 年目)<br/>         講演「宗田理さんが中学生に伝えたいことー戦争と平和」(総合 1 年目)<br/>         平和学習発表会(3 学期)(総合 1 年目)</p> |
| 2009 (平成 21) | 中 2<br>学年主任<br>担任               | <p>テーマ「平和・人権・民主主義」(総合 2 年目)<br/>         人権学習連続講座開始(総合 2 年目)<br/>         映画「典子は今」鑑賞(総合 2 年目)<br/>         車椅子体験・ブラインドウォーク体験学習(総合 2 年目)<br/>         東京フィールドワーク(第五福竜丸展示館、高麗博物館等)(総合 2 年目)<br/>         「関東大震災・朝鮮人虐殺・もうひとつの大逆事件」(歴史「近現代」)<br/>         ピース・レポート 09 作成(3 学期)(総合 2 年目)</p>  |
| 2010 (平成 22) | 中 3<br>学年主任<br>副担任              | <p>テーマ「平和・人権・民主主義」(総合 3 年目)<br/>         奈良・京都修学旅行-立命館大学国際平和ミュージアム見学(総合 3 年目)<br/> <b>実践 6</b> 埼玉朝鮮初中級学校交流会④(総合 3 年目)<br/>         全体合唱・有志合唱・箏曲・朝鮮舞踊・質問交流会・ミニ腕相撲<br/>         映画「第五福竜丸」と「ゴジラ」鑑賞(総合 3 年目)<br/> <b>実践 8</b> 「君たちに伝えたい、朝霞そこは基地の街だった。」⑨(総合 3 年目)<br/>         卒業論文(新聞形式)作成(総合 3 年目)</p>  |
| 2011 (平成 23) | 朝霞 3 中<br>中 2 (55 歳)<br>(最後の担任) | <p>「東日本大震災は原発震災ー原発推進派と脱原発派」(地理「東北」)<br/>         「G 8 (2011 年 5 月、フランス・ドービル) と原発」(地理「ヨー</p>  |

|              |                      |   |
|--------------|----------------------|---|
|              |                      | <p>ロッパ)</p> <p>「東日本大震災新聞を作ろう」(夏休み課題)</p> <p>「東日本大震災新聞の発表会」(地理、夏休み課題発表会)</p> <p>「核と人類は共存できない-君は第五福竜丸を知っているか?」(道徳)</p> <p>「津波てんでんこ」(道徳)</p> <p>「再び津波てんでんこ-家族5人失った石巻市職員」(道徳)</p> <p>「NHK スペシャル『震災孤児 1600人』」に学ぶ(道徳)</p>   |
| 2012 (平成 24) | 中 3<br>進路指導主事<br>副担任 | <p>進路学習 1「童謡『赤とんぼ』と 15 歳の進路」(総合)</p> <p>進路学習 2「唄『受験生ブルース』に学ぶ」(総合)</p> <p>「あなたは、従軍慰安婦(日本軍「慰安婦」)を知っていますか?」⑤(公民「国際人権」)</p>   |
| 2013 (平成 25) | 中 1<br>学年主任<br>副担任   | <p>テーマ「平和・人権・環境・民主主義」(総合 1 年目)</p> <p>地域学習連続講座(総合 1 年目)</p> <p>「朝霞の歴史」ゲストティーチャー(総合 1 年目)</p> <p>「人生はドラマだ」ゲストティーチャー(総合 1 年目)</p> <p><b>実践 8</b> 朝霞フィールドワーク⑨(総合 1 年目)</p>   |
| 2014 (平成 26) | 中 2<br>学年主任<br>副担任   | <p>テーマ「平和・人権・環境・民主主義」(総合 2 年目)</p> <p>「近くて遠い国」(地理「アジア」)</p> <p>埼玉平和学習フィールドワーク事前学習(総合 2 年目)</p> <p>埼玉平和学習フィールドワーク当日(総合 2 年目)</p> <p>原爆の凶丸木美術館、埼玉県ピース・ミュージアム</p> <p>映画「第五福竜丸」鑑賞(総合 2 年目)</p> <p>映画「ゴジラ」鑑賞(総合 2 年目)</p> <p>第五福竜丸平和学習フィールドワーク(総合 2 年目)</p> <p>(第五福竜丸展示館、夢の島熱帯植物館)</p> |
| 2015 (平成 27) | 中 3<br>学年主任<br>副担任   | <p>テーマ「平和・人権・環境・民主主義」(総合 3 年目)</p> <p>映画実写版「はだしのゲン」鑑賞(総合 3 年目)</p> <p>講演会「元特攻隊員が伝えたいこと」(総合 3 年目)</p> <p><b>実践 9</b> ヒロシマ・京都修学旅行⑤(総合 3 年目)</p> <p>「安保法制はどうなるか?」(公民「日本国憲法」)</p> <p>「平和学習のゴールから新しいスタートへ」(公民最終授業)</p> <p><b>実践 6</b> 埼玉朝鮮初中級学校歓迎交流会⑤(総合 3 年目)</p>                     |
| 2016 (平成 28) | 中 1<br>副担任           | <p>「日本列島の誕生 - 日本列島人はどこから来たか?」(歴史「日本列島の形成」)</p>  |
| 2017 (平成 29) | (60 歳)               | <p>「パール・ハーバーとヒロシマ」(公民「日本国憲法」)</p>   |

|  |                                  |
|--|----------------------------------|
|  | 3月、定年退職（初任朝霞2中→朝霞4中→朝霞1中→朝霞3中退職） |
|--|----------------------------------|

(注) 1、中学校社会科（地理・歴史・公民）の授業実践の中で特に力を入れたものを記した。例として、(地理「岩手県」は、社会科地理的分野の「岩手県」を扱った授業実践を意味する。

2、「文化祭クラステーマ」「学年・学校行事」は、現在の「総合的な学習の時間」に相当する取り組みである。

3、2002年度以降、表中の「総合」とは「総合的な学習の時間」を指す。（総合1年目）、（総合2年目）、（総合3年目）は3年間同一テーマで取り組んだ教育実践である。

4、表中の実践1～実践9は、本論中の教育実践1～教育実践9に相当する。

表2 遺族会兵士一覧表

|    | 召集年月日    | 死亡年月日    | 配属部隊    | 死亡地             | 年齢  |
|----|----------|----------|---------|-----------------|-----|
| 1  | 不明       | 1945年6月  | 陸軍      | タラカン島ジワタ方面      | 23歳 |
| 2  | 1942年7月  | 1949年9月  | 陸軍      | 白子陸軍病院（現国立埼玉病院） | 37歳 |
| 3  | 1941年11月 | 1944年1月  | 海軍      | 東方海面            | 40歳 |
| 4  | 1943年8月  | 1944年2月  | 15308部隊 | ニューギニア          | 24歳 |
| 5  | 1938年1月  | 1938年12月 | 北支派遣軍   | 北支パオトウ          | 22歳 |
| 6  | 不明       | 1945年3月  | 不明      | ニューギニア          | 24歳 |
| 7  | 1940年1月  | 1945年4月  | 横須賀海兵   | フィリピンクラーク地区     | 26歳 |
| 8  | 1941年7月  | 1946年5月  | 野砲      | シベリア            | 38歳 |
| 9  | 1941年5月  | 1945年7月  | 満州      | レイテ島            | 35歳 |
| 10 | 1943年10月 | 1945年7月  | 陸軍      | レイテ島            | 不明  |
| 11 | 1941年7月  | 1950年8月  | 満州      | 自宅              | 42歳 |
| 12 | 1942年8月  | 1944年3月  | 光戸部隊    | ニューギニア          | 不明  |
| 13 | 1944年1月  | 1945年3月  | 東部63部隊  | フィリピン           | 34歳 |
| 14 | 1942年12月 | 1944年9月  | 近衛兵     | 中支湖南作戦          | 33歳 |
| 15 | 1944年7月  | 1945年4月  | 海軍      | フィリピン           | 31歳 |
| 16 | 1940年2月  | 1942年8月  | 札幌25部隊  | 中国山西省           | 22歳 |
| 17 | 1944年不明  | 1945年7月  | 陸軍通訳    | フィリピン           | 37歳 |
| 18 | 1943年11月 | 1945年6月  | 横須賀海軍   | 本州東方海面          | 38歳 |
| 19 | 不明       | 1944年8月  | 貨客船     | 馬公（マレーシア）からマニラ  | 31歳 |
| 20 | 1943年10月 | 1944年7月  | 赤羽工兵隊   | サイパン島           | 39歳 |
| 21 | 1944年10月 | 1945年4月  | 甲府63部隊  | フィリピン           | 29歳 |
| 22 | 1941年6月  | 1945年1月  | 旭2158部隊 | 中支              | 40歳 |
| 23 | 1944年9月  | 1945年6月  | 金沢工兵隊   | 中華民国            | 33歳 |